「人生の交差点」～無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ

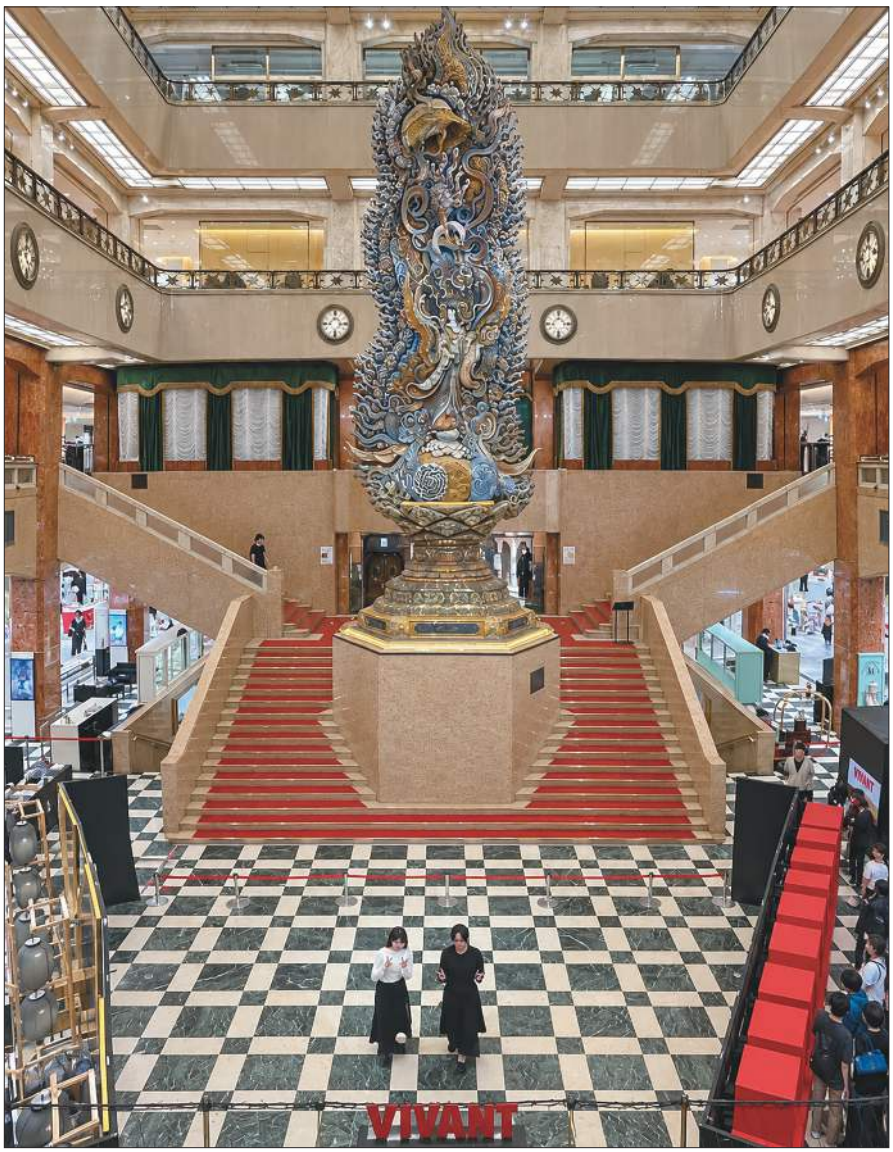
Life Crossing

人生・生活・命の交差点／季刊（創刊2001年）

2026年 冬・87号

信条・世に媚びず　・枠にとらわれず
・言いたいことはハッキリ言おう

発行／馬場 雅夫
FAX：06－7879－6372
〒110-0015
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号
URL：https://lifecrossing.ne.jp/
E-mail：info@lifecrossing.ne.jp



日本橋三越本店の一階の天女（まごころ）像

TBS系『VIVANT』の11話で堺雅人と阿部寛が落合う重要なシーンに撮影。フォトスポットとして並んだ若いカップルがVサインしてカメラに収まっていた。

佐藤玄々作の木造彫刻で昭和25年製作を開始、10年かけて完成。公式発表で総費用１億５千万円。宝玉１万２千個散りばめた高さ11m重さ6.75トン、５階まで吹き抜けに聳え立つ。

毎号表紙を飾る写真を募っています。単なる風景ではなくユニークなものを歓迎します。

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

地方は民主主義の学校か？
予算を握る者が地方を支配
新潟県議会議員 杉井 ひとし…2

NHKさん、いい加減にしてよ
大河ドラマ豊臣兄弟で
歴史の歪曲、捏造に抗議する
大阪市中央区 原野 道有…3

造物主からの伝言 －その九－ AI(SI)の真実
北里大学名誉教授 馬渕 清資…4

倫理的世界連邦のためと日本のケジメ
未来志向の関係を築く一歩
千葉 市川市 さすらいの旅人 西見 恭平…5

立憲民主党の現状と今後の展望
東京都議会議員 弁護士 三雲 崇正…6

中道（元立憲）は支援者を
舐めるのもいい加減にしろ！
一筋の光明は…
大阪東成区 田淵 豊…7

左翼・革新勢力の敗北を認めることから始めよう
立憲・野党がこのままじり貧になってはいけない
東京 台東区 三田 栄考…8

一介の地方議員奮闘記（第８回）
杜撰な地域未来交付金 採択の実態
信州小海町議員 渡辺 均…9

作家の時代性 夏目漱石
三条市立図書館長 丸山 善三…10～11

災害が起きる度に自然から教えられる
東京 会社経営 岡山 眸生…11～12

浅草寺の起源
女帝推古天皇で繋がる飛鳥と浅草
協同組合浅草商店連合会 理事
台東区観光ボランティアの会 ガイド
西山 繁夫…13

消費税は一律減税・インボイスは
廃止に！運動を広げよう
食料品のみ１％減税の問題点
江東民主商工会・事務局長 赤羽目 新児…14

好奇心旺盛なDNA　野口 文子…15

余録／編集後記……15

我、敗れたり、されど、
闘いは続けねばならない
民主改革の会 新潟県衆議院議員 西村 智奈美…16

視点

地方は民主主義の学校か？
予算を握る者が地方を支配

新潟県議会議員　杉井　ひとし



「地方自治は民主主義の学校である」と説いたのは、英国の政治学者ジェームズ・ブライスである。この言葉に照らせば、市町村や都道府県の首長、議会は、民主政治の実現に努めているはずだ。ところが現実には、選挙区内の気にくわない市町村に対する道路補助金を「減額した」と得意げに語る政治家がのさばっている。これは民主主義の危機と言わざるを得ない。

地方議会の実態も理想とは程遠い。今年、福岡県議会では議会ポストをめぐる金銭授受疑惑、高額な海外視察、県幹部互助会によるパーティー券購入などが問題になった。

十年ほど前には、富山県議会や富山市議会、山形県議会などで政務活動費の不正受給が発覚。新潟県でも七年前、官製談合事件をめぐり元県議会議長の秘書が逮捕され、四年前には自民党県連の内紛から、元知事の衆院議員が裏金を要求されたとして元県議会議長を刑事告発した。これが「民主主義の学校」なら、反面教師と受け止めるほかない。

こうした問題は国政にも表れている。その典型が、今年二月の衆院選で保守分裂となった栃木三区だ。無所属新人が当選し、自民党現職は小選挙区で敗れたものの比例代表で復活当選した。その議員は五月の党会合で、次のように語った。

「那須烏山市、那珂川町の令和八年度の道路予算については大幅にカットしました。これは当たり前なんですね。一つは首長が自民党の国会議員はいらないという行動を取ったわけですから。二つ目は票数。多くの市民町民がそのような判断をしたということですから。自民の議員に頼ってインフラ整備が必要だというところに回すのが当たり前の話ですから、それをやりました」

さらに「那須烏山市については前年度の六四％減、約三分の一にしました。那珂川町は五四％減にしています」と具体的な数字まで挙げた。



この二市町では、首長が応援した無所属新人の得票が自民党現職を上回っていた。議員は「これくらいのことはやらないと真面目にやっている人たちが浮かばれない。党の組織の統制が取れなくなる」と述べ、建設業者に対しても「私がいらないということで無所属の議員を応援するのであれば、私が取ってきた予算をなんで受注するのか」とどう喝した。まるで粛清を気取ったかのようである。

この議員は予算を「減らした」と自慢して批判を浴びた。では、「増やした」と自慢するなら問題はないのか。実際、多くの議員が予算獲得を手柄話にしている。

しかし、民主政治とは、国民の税金を無駄なく効果的、効率的に使い、重要度や緊急度に応じて公平公正に分配することである。本来ほかに回すべき予算を、自分の選挙のために分捕ってくることも民主主義とは言えない。必要なのは予算配分の透明化だ。

こうした政治家が生まれる背景には、国と地方の関係がある。平成十二年に施行された地方分権一括法は、両者の関係を「上下・主従」から「対等・協力」へ改め、国の機関委任事務を廃止し、自治事務と法定受託事務に分類した。地方の課税自主権も拡大した。

しかし、地方の財源はいまなお地方交付税や国庫支出金に縛られている。口では対等と言っても、「カネ」は国が握ったままだ。地方が国に「この事業に予算を付けてください」と陳情する関係は変わっていない。

この上下関係があるからこそ、自民党議員は選挙で「中央から予算を取ってきます」と訴える。そして、「平家にあらずんば人にあらず」ならぬ「自民にあらずんば予算を付けず」と勘違いする政治家まで現れる。

「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対に腐敗する」とは、英国の歴史家ジョン・アクトンの言葉である。国会でも地方議会でも、同じ勢力が権力を握り続ければ腐敗が生じる。

政権交代が起きないからこそ、「俺を応援しない地域の予算を減らす」という傲慢な議員が生まれ、閣僚にまでなってしまう。

国会と地方議会の双方で圧倒的多数派を減らすこと。それこそが「真の民主主義の学校」を実現する第一歩ではないだろうか。

杉井旬（すぎい・ひとし）プロフィール～「行革で新潟の新たな活力源を！」をテーマに活動する新潟県議会議員。現在２期目。会派はリベラル新潟。2006年、三条市議会議員選挙で初当選。市議会議員を４期務めた後、2019年の新潟県議会議員選挙で初当選。2023年に再選され、現在に至る。出身校は大崎中学校、三条高校。専修大学中退。衆議院議員菊田まきこ公設秘書を２年間務めたほか、元三條新聞記者（記者歴21年）

NHKさん、いい加減にしてよ
大河ドラマ豊臣兄弟で歴史の歪曲、捏造に抗議する

大阪市中央区　原野　道有

日本史に関心が深く、本誌に何度か歴史ものを掲載させていただいた立場だが、悲しい腹立たしい思いで毎回観ています。視聴者の為にもNHKにもの申したい。現に既に関係する茨木市と大分県竹田市から異例の公式に抗議が出されています。賤ケ岳合戦で秀吉麾下の中川清秀が裏切者として前田利家に刺殺され首を秀吉の前に投げられたのは歴史の歪曲であるとの指摘です。

子どもから高齢者まで1千万人もの国民が観る大河ドラマは、公共放送であるNHKには民放の娯楽番組以上に歴史を扱う責任があると思う。

歴史を捏造したとの私の指摘は言い過ぎとの意見もあることを承知で言わせてもらう。信長の妹のお市の方が愛する夫浅井長政の切腹の介錯をするなんて!?女性が介錯なんて聞いたことが無い。素人の私だが断言する。歴史のデッチあげです。『大河はドラマ（フィクション）』だからという言い訳は通用しないはずです。本能寺の現場に秀吉の弟の秀長が駆けつける！捕らえられた光秀への秀吉による尋問、冗談じゃない！今度は柴田勝家とお市の方が北の庄（福井）城の天守閣から二人で手に手を取りあって飛び降り自害劇――。あり得ない。これらはあまりにも史実とかけ離れた、荒唐無稽な「捏造」と言わざるを得ません。私が演じる役者なら良心に従って拒否します。当事者やその子孫が生きていたら名誉棄損で訴えられてもおかしくないレベルです。信長の甥の織田信澄が光秀をそそのかして本能寺の変を起こさせた。謀反の本心は様々な意見が学者間でもあるが信澄説は聞いたことがない。それなら変後信澄が大坂で簡単に丹羽長秀に懲殺されなかったでしょう。歴史の改変は安易にすべきではない。



※右画像～お市が夫長政を介錯する場面。人の首を一太刀で切り落とすのは男でも剣の達人でないと無理

NHKは視聴料の大金をふんだんに使って好き勝手なドラマを作るのはやめていただきたい。後世にこの放送が史実として伝わったら責任は誰が取りますか？やるならせめて江戸時代の忠臣蔵のように仮名でやってください。高市秀吉とか、ドナルド秀長とかが活躍するなら漫画で済まされるが。もしくは、脚本家の八津弘幸氏は自費で時代小説でも書かれたら如何。時代考証の駿河台大学黒田基樹教授にもお尋ねしたい、史実と大きく異なることを承知で恣意的に変更した意図を説明願いたい。私が歴史学者ならこのような歪曲を到底容認できない。現実の歴史では女性が刺身の妻どころか、正式名称も明らかでないのが多い。21世紀の現代人に迎合して奇麗な女性をみせたいのは多少は私も了解するが度が過ぎすぎるのはいけません。大河ドラマは近年脚色が過ぎて、ひいては事実と大きく曲げた放送になり下がっている。



※右画像～ドラマお市と勝家が天守から飛び降りる場面をAIで作成。かっこ良いように見えるが、無残な死体を秀吉の兵士の前にさらすことは貴人としてあり得ない。天下の美女お市の方になり代わってNHKに抗議したい。

しかし、私は断言したい、現代人が思い描くほど昔人の生活は楽ではなかった。ましてや戦はかっこ良い、勇ましいものではない。我々が見聞きする見栄えの良い場面に騙されている。誰が1つしかない命を、大怪我をしたら生涯大不自由の戦に気軽に参加できるものか。恐る恐るの闘いであったはずだ。それにテレビではいつも鎧兜を付けているが自分で20キロの甲冑をまとって歩くことを考えてみたら分かるでしょう。1分でも早く脱ぎたい、重くてかなわない、動けないです。

現実の歴史の姿を正確に描けば視聴率を稼げないが、我々が正しい歴史観を持たないと秀吉の朝鮮侵略（悪事）を朝鮮征伐（悪者をこらしめる）と思い込ませる修正主義の結果となります。韓国国民から一番嫌われている日本人は侵略者秀吉です。このような意識の乖離は両国民の関係に大きな溝を作っています。大河ドラマは多くの視聴者が『歴史を学ぶ入り口』として見ていますのをお忘れなく、NHKさん。

造物主からの伝言　-その九-

AI(SI)の真実

北里大学名誉教授　馬渕　清資



ＡＩ（人工知能）が人類を滅ぼすという物騒な話が、世上を賑わしている。なぜ、そんなことになるのか。

これまで、人類の滅亡と言えば、核兵器による世界大戦か、地球規模の環境破壊が、引き金を引くのではと危惧されてきた。どちらも、人類の知能活動が生み出した文明によってもたらされた、負の遺産である。

ＡＩを生み出したのも、ヒトの知能である。その過度の進歩が、なにがしかの危険をもたらすのではという、漠然とした不安はある。しかし、たかがコンピュータの中にある仮想世界の存在が、現実世界の人類を滅ぼすとは、にわかには信じられない。

その楽観を揺るがす事態が、この九月に起きた。米国で生成ＡＩを開発しているアンソロピック社の研究者Ｊ・コクソン氏が、今後短期間にＡＩの能力が恐ろしいレベルに到達して社会を破壊すると公言し、それに加担したくないという理由で、会社を辞めてしまったのだ。ＡＩの開発をしている当事者自身が、「ＡＩが人類の脅威だ」と発信したことは、全世界に衝撃を与えた。

問題となっている生成ＡＩというのは、自らを進化させるために、自らのプログラムコードを書き換える能力を持つＡＩである。再帰的自己改善と呼ばれるこの仕組みは、ＡＩの能力を際限なく向上させる。その結果、既存のコンピュータシステムを超えるレベルに、容易に到達する。

最近になって、大手企業が、サイバー攻撃の被害を受ける事件が急増した背景には、間違いなくこの生成ＡＩの影がある。遠からず、すべての企業が被害を受けるだろう。ほぼすべての個人情報が、犯罪者の手に渡る。そのとき、どれほどの混乱が社会全体に起きるのか、想像できない。

ただ、いまのところ、大手銀行や郵便局などの、金融機関は、セキュリティシステムが堅固なためか、深刻な攻撃を受けていない。

しかし、ＡＩの進化は、際限がないので、いずれは、セキュリティを突破されるだろう。それでも、ハッカー達は、金融機関への攻撃はしないと考えられる。なぜなら、金融機関から巨額のお金を奪うと、貨幣経済全体が崩壊してしまい、ハッカー達の奪ったお金自体も、紙くずになってしまうからだ。



国家が、戦略として対立国の金融機関を攻撃する可能性はある。しかし、攻撃を受けた側も必ず同じ方法で反撃するので、混乱はたちどころに全世界に及ぶ。その事態は深刻で人類を滅亡させる可能性すら考えられる。希望的観測としては、核兵器の使用を躊躇させる核抑止力と同じように、人類を滅亡させる可能性、それ自体が、金融機関への攻撃を止める力になることである。



ＡＩの脅威は、他者の攻撃だけでなく、もっと平和的な部分にも存在する。

現在、株の取引に、ＡＩによるアドバイスが利用されている。それで、ＡＩが進化して、株価の変動予測が完全に当たるようになったらどうなるか。投資家が全員、ＡＩのアドバイスに従い売買を行う。すると、買われる株価は瞬時にストップ高まで上昇して、取引は停止する。また、ＡＩが売りなさいと言えば、瞬時にストップ安まで下落する。その事態は、取引開始するたびに繰り返されて、株式市場が崩壊する。

こうした事態は、投資と名がつく経済活動すべてに起きる。都心の高層マンションのバカげた価格高騰にもＡＩの影が見える。おそらく、不動産投資家が皆でＡＩのアドバイスに従ったためである。

現代社会では、ほとんどのお金が、コンピュータの中のデジタルデータとして存在するので、ＡＩの経済システムへの影響を止めるのは難しい。しかし、核戦争とか地球環境破壊とは異なり、物質（実体）は破壊されない。経済システムが崩壊しても、社会を貨幣経済の存在しなかった三千年前に戻せれば、人類の滅亡は免れる。残念ながら、荒唐無稽な話である。

筆者のプロフィール

バナナの皮を踏むと滑る理由を世界で初めて科学的に解明しイグノーベル物理学賞（人を笑わせ、考えさせる研究に贈られる）を2014年に受賞。
～ウィキペディアで『馬渕清資』と検索ください。

倫理的世界連邦のためと日本のケジメ
未来志向の関係を築く一歩

千葉 市川市　さすらいの旅人　西見 恭平

先般「倫理的な世界秩序のための憲章」（84号視点で掲載）を投稿したが、いま必要なのは、その理念を実現するための道筋を示すことではないだろうか。既に世界には世界連邦の理念に関する宣言もあるが、私はその前進の動きに接したことは記憶にもないようだ。私は世界の何処にも戦争を起こさせないと世界の一人一人が立ち上がるような動きになっていないことが残念に思われる。奮い立つようなプロパガンダを打ち続け常に機運を維持し続ける何かが必要だ。

少し古いが、ＹｏｕＴｕｂｅ「田原総一郎スペシャル：あなたは、この日本が好きですか！」で高校生との討論が行われた。「自由に生活できるから日本が好き」という意見が多い一方、「戦争は人類の宿命」「自分の国を守るのは当然だ」という声もあった。「他国が攻めてきたら戦うか」と問われ、「戦う」と答えた女子学生に拍手が起こった一方で、「国連は無力で、武器を持っても意味はない。日本が手本を示せばよい」という意見もあった。しかしそこには、理想を語ることへの無力感が漂っていた。

理想論は「建前論」「非現実的」と切り捨てられる。だが、理想を語れない社会こそが問題であり、未来を形づくる力を自ら放棄していると言える。



いま再び、太平洋戦争における「日本正義論」が芽を出している。その行き着く先は、再び戦争を肯定する社会である。日本は先の戦争について十分な「けじめ」をつけてこなかったため、国家としての未来へ続く揺るぎない設計図を描けていない。そのことが、若い世代が自国に自信を持ち、世界に平和を訴えるうえでの難しさにもつながっているように思う。

だからこそ今、政府だけでなく、自治体、政党、教育委員会、企業、市民団体など、社会のあらゆる主体が「けじめ」をつける必要がある。平和宣言に賛同し、過去の過ちを認め、これからの不戦を誓う。それが一つの「けじめ」になるのではないか。

「倫理的な世界秩序のための憲章」の基本理念は、「拠るべきは人類の良心と倫理の力である。力なき非核国家と地球市民が連帯し、倫理に基づく新たな国際平和連合を築くことこそ未来への道である」というものである。

しかし新たに作る方法でなくＥＵやＡＳＥＡＮなど既存の地域共同体を核として連携を拡大し、新しい国際組織へ発展させる方法もある。現行の世界連邦運動と協調し力を結集していく段階もあろう。日本がその旗振り役になってもよい。カナダなど理念を共有できる国々に働きかけ、まずは軍事同盟を破棄した「拡大ＥＵ」「新ＵＮ」とも呼べる枠組みを構想したい。

この平和連邦は最終的には兵器の廃絶を目指す。しかし、まず理念を掲げ、その第一歩を歩みだすことが先である。将来的には各国の軍隊を国際的な平和維持部隊へ組み込み、国際的な司法裁判・刑事訴訟を実効性あるものにする仕組みも必要である。そのための倫理法・倫理憲章も必要だ。



気候変動も人類共通の課題だが、その気候変動問題の最大の敵は戦火である。気候変動対策過怠や侵略戦争に対しては法的処分が必要である。

ここまで想像を進めてみるとやるべきことは多くある。国際的には、倫理憲章、核保有国の倫理停滞への覚醒戒告、非核志向国へ呼びかけ、ＡＩへ倫理憲章指導とか、国内的には各団体の平和宣言文が今すぐ必要となる。政治家はマニュフェストにこのロードマップの動きをいつも掲げて、選挙の焦点になり国民がどこまで進んでいるかを話題に出来る日常性が欲しい。道筋の先と結果を明らかにすることこそ、政治家の責任である。

それに着手すれば、日本は世界史に新たな足跡を残すことができる。中韓との歴史問題についても、けじめをつけて、未来志向の関係を築く一歩となるはずである。



立憲民主党の現状と今後の展望

東京都議会議員　弁護士　三雲　崇正



２０２６年２月の衆院総選挙の後、立憲民主党は極めて厳しい試練に直面しています。所属衆院議員（及び公認候補者）が中道改革連合（中道）へ合流した結果、党内の衆院議員が不在となり、現在は党のあり方そのものを根本から問い直す再建の渦中にあります。

自民党の高市政権発足に伴い公明党（公明）が与党を離脱したことを受け、野田佳彦代表（当時）は「政権の受け皿」を目指し、公明と合同で中道を結成しました。しかし選挙結果は公示前の１６０議席超から49議席への大敗。立憲は公明とともに衆院選後に新党へ合流する方針でしたが、わずか半年で新党は解体に至りました。

大敗の要因としてＳＮＳの影響を指摘する声もありますが、私は以下の構造的要因が大きかったと考えています。

一つ目は、安全保障やエネルギー政策など国家の根幹に関わる課題で徹底議論を経ない合流が、有権者の目には「数合わせ」と映ったことです。政権与党であった公明と、野党第一党として対峙してきた立憲が合流するのであれば、国会議員だけでなく党員や地方議員、支持母体も巻き込んで両党の政策や基本姿勢を踏まえた議論を重ね、新党の目指す社会像を明確に提示すべきでした。

二つ目は、十分なプロセスを経ない合流が招いた支持者の離反です。唐突な合流は支持者や地方議員に疎外感を与え、新党の基本政策への理解を困難にしました。立憲の緩やかな支持層は中道へ向かわず、現場も戸惑いの中で選挙運動を行うことになり、新党への期待どころか、立憲単独で得られていた支持すら失いました。

三つ目は、「右でも左でもない『中道』」という立ち位置の不明瞭さです。自民・維新の保守政権に対し、中道勢力による受け皿を唱えましたが、具体的な立ち位置が曖昧なまま埋没しました。

通常国会では、中道、公明、立憲の協議により新年度予算案や「国旗損壊罪」には一致して反対した一方、「国家情報会議」設置法案や皇室典範改正案では対応が分かれ、徐々に政策的な相違も明らかになりました。



千代田区都議補選最終日の打上げ演説
左端が塩村あやか参院議員、右端が筆者

こうした中、立憲の地方組織からは新党合流に消極的な声が広がり、８月末には３党間の合流協議が打ち切られました。現在、立憲は独立した政党としての立ち位置を明確化し、参議院議員や地方議員、そして全国の党員が結束して党組織の再生を進める途上にあります。

立ち位置の明確化では、政権与党に対する「明確な対立軸」の提示が不可欠です。国家情報会議設置法、国旗損壊罪、皇室典範改正など憲法上の価値観が問われる法案を多く成立させ、保守的理念を優先する自民・維新政権に対し、安易な妥協を排し、権力監視と国民の権利を守る姿勢を貫くと同時に、社会保障と経済の安定を最優先に据えた政策パッケージで対峙すべきです。

党組織の再生では、東京都連において地方議員による常任幹事会のオンライン傍聴など意思決定の透明化が図られ、総支部が党員を中心に再整備されるなど「草の根の民主主義」を取り戻す動きが進んでいます。こうした動きを全国に広げ、ボトムアップ型の透明な党運営を確立することが期待されます。

それと同時に、政党である以上、積極的に選挙を通じて政策の浸透を図る運動が重要です。先般行われた千代田区の都議補選（定数１）では、２００９年の民主党以来17年ぶりに同地の都議選で公認候補として浜森香織氏を擁立することができました。結果は落選でしたが、立憲として旗を掲げることができた意義は大きいと思います。



予算特別委員会で質問する筆者

理念や政策を脇に置いた数合わせの合流は支持を失う結果となりました。２０１７年に「草の根の民主主義」を掲げて起ち上がった結党の原点こそ、今立ち返るべき場所です。立憲民主党は、他党と必要な協力をしつつ自らの理念を語る「独立独歩」の姿勢で、支持者の皆様と共に政治の変革へ向けた歩みを進めてまいります。

三雲崇正法律事務所
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場1-17-17
山口ビル301
03-6380-3185（TEL）
03-6380-3186（FAX）
takamasa.mikumo@mikumo-law.com
https://mikumo-law.tokyo

三雲崇正さんのプロフィール～東京大学法学部卒、英国エディンバラ大学法学修士（国際商業法、EU法）。2004年10月弁護士登録（第二東京弁護士会）、2015年７月行政書士登録（東京都行政書士会新宿支部）。アンダーソン・毛利・友常法律事務所所属弁護士から海江田万里衆議院議員の政策担当秘書を経て2015年４月に新宿区議会議員（２期）、2025年７月に東京都議会議員（１期）。都議会経済・港湾委員会委員、東京都都市計画審議会委員。共著に「TPP・FTAと公共政策の変質」（自治体研究社）、「安易な民営化のつけはどこに」（イマジン出版／岸本聡子杉並区長との共著）

中道（元立憲）は支援者を舐めるのもいい加減にしろ！一筋の光明は…

大阪東成区　田淵　豊

保守の立場ながら、中道や旧立憲民主党を長年支えてきた人たちには、ご同情申し上げます。

「あなたたちは、いったい誰のために政治をしているのか。支援者を馬鹿にするのもいい加減にしろ」

そう言いたくなります。

今年1月、立憲民主党と公明党の衆議院議員が合流して「中道改革連合」が誕生しました。

ところが2月の衆院選では49議席にとどまり、その後の3党合流も頓挫。わずか7カ月余りで事実上の分裂が決まりました。しかも、それで一枚岩になったわけではありません。

旧立憲代表の泉健太氏は新党に参加せず、新会派「志士の会」を立ち上げました。さらに旧中道の落選者らを中心に「護憲リベラル共生」という政治団体も誕生。略称は、護憲の「ゴ」、リベラルの「リ」「ラ」を取って「ゴリラ」です。中道、公明、新党、志士の会、そしてゴリラ。長年支えてきた人たちが、「いったい自分は何を応援していたのか」と戸惑っても無理はありません。

さらに納得しにくいのが「政治とカネ」の問題です。

中道改革連合は事実上分裂したにもかかわらず、国会議員を一人残して党を存続させています。

その理由の一つが政党交付金です。2026年分として約23億4000万円が予定され、小川淳也氏は選挙費用の未払いが残っているため「支払いを完済するまで解党できない」と説明しています。業者への支払いは当然です。しかし、この政党は自民党の政治資金問題を厳しく追及してきました。それだけに、

「他党のお金には厳しいのに、自分たちには甘いのではないか」という疑問を持たれるのも仕方ありません。

さらに、中道はクラウドファンディングで1万人を超える支援者から1億円を超える資金を集めました。

ところが、その数カ月後には事実上分裂です。支援者にとって政治とは、単なる政界再編ではありません。自分が託した一票であり、自分の財布から出した大切なお金なのです。



ただ、私は立憲民主党そのものにまったく期待していないわけではありません。わずかながら期待しているのが、地方議員の存在です。

今年5月に行われた立憲民主党東京都連の会長選では、知名度の高い蓮舫参院議員と、武蔵野市議の川名雄児氏が争いました。結果は、蓮舫氏81票、川名氏124票。国会議員であり、全国的な知名度を持つ蓮舫氏を、地方議員の川名氏が破ったのです。

私は、この結果には少し注目しています。

川名氏は選挙後、立憲民主党や都連に不満を持っている自治体議員が多かったとして、「立て直しをしっかりやりたい」と語りました。党自身も2026年度の活動方針で、国会議員だけでなく地方議員や党員の声を反映し、「拙速なトップダウンに陥らない」党運営を掲げています。

つまり、永田町の国会議員が上から方針を決め、それを地方へ押しつける政治ではなく、地域で有権者と向き合っている議員たちの声から党を立て直そうという動きです。

自民党も近年、政策や党内力学を大きく変化させています。ならば立憲民主党でも、従来の看板や有名政治家に頼るだけではなく、地方から新しい流れが生まれてもおかしくありません。



立憲民主党・東京都連の新会長・川名雄児氏

私は保守だからといって、左派やリベラル勢力など消えてなくなればいいとは思っていません。世の中にはさまざまな考えの人がいます。与党が巨大化し、間違った方向へ進もうとしたとき、それを止める野党は必要です。

政権を批判し、別の政策を提示する。それが健全な民主主義ではないでしょうか。

国会議員同士の離合集散ではなく、地域で地道に活動する地方議員から党をつくり直す。もし、そんな立憲民主党に変わっていくのであれば、保守の私でも少しは期待してみたいと思います。

そして何より、長年支えてきた人たちがもう一度、

「この党を応援していてよかった」

と思える政党になってほしいものです。

左翼・革新勢力の敗北を認めることから始めよう

立憲・野党がこのままじり貧になってはいけない

東京 台東区 三田 栄考

革新の立場に身を置いて半世紀以上。資本主義の矛盾を感じ、平和と人権、格差解消をめざす我々が正しいのだからいずれは望む政権が政治が実現できると信じて生きて来た。

しかし、状況は昨年より今年、来年は更に悪くなっているだろう。安保三文書の見直し、議員定数の削減、憲法改悪など、どれ一つとっても後退しかない。20年前なら阻止できたことが我々現在の力では無理だろう。我々は敗北したことを認めて、闘い方を変えることから始めなければいけない。

我々は稚拙である。自民党はたくましく、各界に根を張っていて、統治能力も、経営能力も、資金集めの力も、災いを跳ね返す力も、そして毒も濁も飲み込むえげつなさも持っている。それに政権党故にどこにも司令部的な存在も各所にある。これに対抗する力は到底我々にはない。身に付けるのは気の遠くなるほどの歳月が必要だろう。チームみらいが「ＡＩを経済界とどう活用するか」の研究会を行うとの報道があった。さすがだと思う。残念ながら今の日本を動かしているのは経済界・高級官僚と自民党である。我々が反対勢力・政党、少数弱者に過重にテコ入れする勢力、ひね者の集団と多くの国民から見られている限りは多数派になれない、政権を取れない。政治は抵抗・反対党であっては意味がない。政権を担ってこそ我々のめざす社会に多少とも近づけられるが、野党ではめざす社会は遠のく一方だ。

我々は古い主義主張にこだわる集団と思われていないだろうか。私は「思想信条は大事だ」と思うが凝り固まっていてはいけないと思う。日本新党、さきがけ、みんなの党、維新、れいわ新選組、チームみらいなどの主義主張を全面に出さない党名が現れた。もうそんな時代に立憲だ、社民だ、共産だ、中道だ、では時代遅れと自ら名乗っているようだ。

自分は闘っているという自己満足に陥る勿れ。



我々はまるで日ロ戦争の乃木将軍の如く二百三高地に駆け登るごとく単に犠牲を顧みず、闘うことにのみ価値があるかの如く反対運動を続け累々と犠牲の山を築いている。

まるで負けることが美徳の如く。せめてどう負けるかだ。次への展望も見出せない負け方を続けている。自分は正義の為に闘っているという自己満足では意味がない。そう玉砕戦法でなく、条件闘争に徹するべきだ。負け方を工夫すべきだ。少しでも次に闘うために力を蓄えられる負け方を工夫しなければいけない。

若い世代の世論調査では「左派、護憲派、反原発を唱える人達は『保守』だ」と見えるらしい。なんでそんな風に思うのか！とひるえがって我々自身を省みると、十年、二十年、三十年と同じことを問題にし、同じように反対し同じように性懲りもなく負け続けていることの繰り返しだから、世の中を前向きに捕えようとするのが革新だから保守と見られても仕方がない。

他方自民党は、経済界は現実の世界を動かしているのだから、時代の進歩、流れの先を読み行動しなければ取り残されてしまう。だから日々研鑽努力を重ねるから革新に見えるのだろう。これではいけない、我々こそ頭を柔軟にして、反対運動と共に時代の先読みをして、自民党と対峙する社会像を提示して行かねばならない。

反対運動は相手の自民党の土俵で相撲を取っているようなものだ。次代の社会像・国家像こそ我々の土俵である。世界平和たる世界連邦を語ろう。

【企業の内部留保金に課税】【金融資産に課税強化】【中国との友好関係】【北との国交回復】【年収５千万以上の大金持ちの課税強化】【自衛隊の地上戦用軍費の削減】【皇居の縮小・解放】【反社会的集団の撲滅】【大学２浪生の受験禁止】【裁判官国民審査の改善】【経営者の賞与・退職金の制限】等等、本気で考えたら幾らでもあるはずだ。

反対運動も結構、歴史から学ぶのも良いが、それ以上に未来を話そう、夢を語ろう。具体的な将来像を研究しようではないか。

軍事バランスより、
人類恒久平和のための
世界連邦建設を！
―ライフクロッシング



当誌は世界平和のために百年後の世界連邦建設を推奨します。

一介の地方議員奮闘記（第８回）

杜撰な地域未来交付金
採択の実態（注１）

信州小海町議員
渡辺 均



中段に掲載の新聞記事は、信州東端、人口４千余人の小海町で起きた予算案に対し、修正動議が採択された結果を信濃毎日新聞が報じたものである。地方議会で原案否決は珍しい。

事業の発端は障がい者対策としてグループホーム（以下ＧＨ）を作ろう、という話から始まった。建設費を賄う補助金を探したが厚労省関係では見当たらず、渦中で内閣府が進めている地域未来交付金制度が浮上、この交付金を得るために、ＧＨ建設を障がい者住宅建設に振り替え内閣府に打診、内閣府はこの交付金は福祉政策ではないので、このままでは難しい、と町が予定した15戸の障がい者住宅の半分7戸を地域未来定住促進住宅（居住整備）と表題を書き換え、公園（土村公園）が加えられた。事業費は居住整備8億円余、公園整備３億７８１０万円、ソフト事業３５２４万円、総額12億16百余万円（Ｒ８年から４年間）となった。これに先行して町は居住整備用地を障がい者住宅建設用地として7年度に取得、これら内閣府との折衝の事実を町は議会に隠し、交付決定後に公表し6月議会に上程した。議会は事態を重く見て不採択の方向を打ち出し、その流れをみて町は上程案を取り下げる、という珍事が生じた。しかし9月議会にほぼ同様の補正予算が提出され、これを不採択にしたのが添付の記事である。



どうなる 小海駅周辺整備

町議「目的変わらない」釈明 埋まらぬ溝

町「目的 福祉から移住者向けに」批判

地域を見つめて

先ず始めに、この一連の流れの中に、私が本誌85号で記した、コンサル依存の第二世代地方創生交付金の虚実、で述べた「やらずぼったくりコンサル」の入れ知恵を垣間見ることができる。内閣府の交付に関する要件を踏まえつつ、求める架空の成果を尤もらしく算出し、町の意向と自身の食い扶持確保に向け、机上の空論を用意し予算を確保する知恵である。その成果はソフト事業予算３５４２万円に集約される。

記事の表題になっている駅周辺整備では、土村公園整備（総額３億７８１０万円）がこれに該当する。メインは１億２２１８万円で設置する大型複合遊具である。これに背後の里山に四阿や散策路などを整備することで、駅周辺の集客力が高まり、賑わいが生み出せると記されている。ＫＰＩ（注２）では公園利用者は＋３３００人。一日９人増えるとされているが、現状の利用者数は示されていない。聞けば把握していないとのこと。この用地は町の貴重な空き地で、小海駅から徒歩３分、ちびっ子広場や60台以上の駐車場として活用され、災害時の緊急避難場所としても有用な広場になっている。

次に居住整備事業について、その杜撰さを示したい。利用対象者は当地で居住体験を行い、いずれ移住～定住を図りたいという方への移住体験住宅で、８億円余を計画している。

町内には空き家を活用した２戸の体験住宅があり、その稼働率は僅か５％（年間の利用日数）である。交付金採択では、この稼働率の低さに改善を求めるべきではないだろうか、しかし実は町は内閣府にこの数字を出していない、出していないことになっている。交付金が欲しい町と、期待に応えたい（？）内閣府では、既存施設の稼働率の向上という選択肢が暗黙の裡に除外されたのではないだろうか。

７戸の住宅数の妥当性をどのように確認したのか、町営住宅の空き家が18戸、一般の空き家が１８０余戸ある。これらの事項が全く審査されていないのである。

計画では移住者が消費する地元商店での消費効果が得られるとしている。しかし町の消費額の多くは町外の最寄り都市に流れ、駅付近にはスーパーもコンビニも無く、商店街は文字通りシャッターで閉じられている。

地域未来交付金のお題目は「地域経済を強くし、地場産業の付加価値化」とされている。内閣府はこの目標が、このような事業計画で達成できると考えているのだろうか、交付の採択に大きな疑問が残る。

（注１）地方の特性を生かし地場産業の付加価値化や強い経済の構築を目指し、自治体の自主的な取り組みを計画から実施までを支援する交付金制度。

（注２）Key Performance Indicator（最終目標を達成するためのプロセスが順調に進んでいるかを測る重要業績評価指標：具体性、測定可能性、達成可能性、関連性、期限明確性が必須の要件）

渡辺均さんのプロフィール～長野県立野沢北高、立教大社会学部卒、㈱社会調査研究所（現インテージ）、㈱富士経済を経てマーケティング会社㈱総合市場研究所を設立、大手企業や林野庁、経産省、総務省などの調査、研究活動に従事。講演先でコンサルは口ばっか、とキツイ言葉に触発され、故郷で土建に偏る地域振興政策からの脱皮を目指すが道半ば、２期目の町会議員。

作家の時代性
夏目漱石

三条市立図書館長
丸山 善三



夏目漱石と森鴎外は、著名な明治期の作家である。その中でも夏目漱石の『坊ちゃん』は、国民的な文学作品といえる。そこで作家夏目漱石とその作風について書いてみたい。

夏目漱石（本名、夏目金之助）は、慶応三年（一八六七年）に名主の家柄に生まれ幼少時代に里子に出され養子となった。東京帝大英文科卒業後、松山中学、第五高等学校（熊本）で英語教師を務め、文部省の留学生としてイギリスへ留学した。

留学の後は、母校東京帝大の講師として日英の文学論を講じた。漱石が、東京帝大で英文学の教鞭をとった最初の日本人であることは、意外に知られていない。尤も、その教師職を辞して朝日新聞の小説記者を兼ねながら文筆家として作家を志していた。

ここで漱石の代表的作品『坊ちゃん』についてその内容を記す。

作品『坊ちゃん』は、明治三九年（一九〇六年）の漱石円熟期の自伝的作品であり日露戦争直後に書かれた。

作品は、教科書にも取り上げられその「親譲りの無鉄砲で…」の書き出し文が有名である。

作品の主人公坊ちゃん（作品では旗本の末裔）が、数学の青年教員として中学校で経験した出来事を書いている。

詳しく述べると坊ちゃんは、新任教員として学校の教頭（赤シャツのあだ名）やその取り巻きである美術教員（野だいこのあだ名）によって嘲笑され学内政治に利用されそうになる。

そして、彼らと対立して信用を失いかける。そんな中、坊ちゃんと数学教員（山嵐のあだ名）は、彼らへの仕返しを試みる。

それは、二人による赤シャツと野だいこ（教頭赤シャツの腰巾着）への鉄拳制裁であった。

それらは、教師と生徒とのねじ曲がった師弟関係さらに、教師間の人間関係の対立構造である。それらのやり取りは、ユーモアに富んで面白い。

作品『坊ちゃん』の大きな特徴としては、その根底に当時の社会に対しての強いメッセージ性を含んでいる事である。



※AIによる作品イメージ

次に作品『坊ちゃん』を当時の社会情勢から考証をしてみる。

作品では、生粋の江戸っ子、坊ちゃんを明治のご一新によって滅びゆく江戸期を示す人物としてとらえ、同じ教師の山嵐を坊ちゃんにくみする人物として登場させた。山嵐は、新政府軍と最後まで闘った旧幕府の会津出身でもある。

つまり江戸っ子で旗本の末裔である坊ちゃんと会津の山嵐は「佐幕側」といえる。対する東京帝大出の教頭赤シャツとその太鼓持ちである野だいこを新政府側とする対立構図である。言い換えれば坊ちゃん側の江戸期の旧秩序と赤シャツ側の明治新政府の実用主義の新秩序との相克の構図が見える。

結末は、坊ちゃん側が学校を去り抗争にピリオドを打つ。それは、滅び去ってゆく江戸時代の敗者の美学とも受け取れる。

そこには、敗者の江戸（過去の世界）と勝ちを納めた明治日本（近代の世界）両者対比の図式を作品の中に見出すことが出来る。

『坊ちゃん』は、昭和十年に初めて映像化され、それから四回にわたり映画上映された。いうまでもなく文学作品としての『坊ちゃん』は、現在もなお幅広い世代で支持されている。

さて、次に『坊ちゃん』以降の漱石作品について少し述べさせて頂く。

漱石作品の中でもベストセラーと言われている『こゝろ』という作品がある。

『こゝろ』は、漱石が、時の陸軍大将、乃木希典の殉死に大きな感動を受けてそれを契機として書かれた作品である。その作品は、青年「私」と先生の二人の視点で書かれ「私」が先生と鎌倉の海岸で出合うところから始まる。

『こゝろ』が書かれた時代背景は、世がまさに、第一次大戦参戦の年であり明治から大正への時代の変遷期でもあった。ここで作者漱石は、大正という新しい潮流を感じて「明治の精神」に終止符を打った時代背景を著した。更に『こゝろ』に続く作品『道草』ではイギリス留学から帰国後、題材を集めて実生活の



※AIによる作品イメージ

記憶を再構成しながら暗鬱な精神的風景画が描かれている。

そこには、自己の思想と時勢の変化を自覚しつつ現在を直視しながら倫理的根拠を自身の中に求める意図が読み取れる。

漱石は最後の作品『明暗』起稿後まもなく持病の胃潰瘍が悪化しついに筆を置き大正五年没した。享年五十歳であった。

漱石の文学者としての影響を芥川龍之介が受け継いでいる。漱石は、他界する一年前に芥川龍之介と初めて会ってその小説『鼻』を絶賛した。

芥川龍之介は、人の繊細な心情を描写しながら透徹した作品を遺した大正時代を代表する作家でもある。

最後に心に留めたい夏目漱石の一文を記す。

「私は死ぬ前にたった一人で好いから、他を信用して死にたいと思ってゐる」

『こゝろ』引用から



今年も、熊本地震に千葉豪雨と次々に災害が襲い掛かる日本。

いつ被災してもおかしくない我々に問われるものは？



災害が起きる度に自然から教えられる

東京　会社経営
岡山 晄生

2011年（平成23年）3月11日の夜、岩手県陸前高田市に住む私たち夫婦にとって大切な親友Mさんから電話があった。

（Mさんからの電話）

陸前高田に電話がつながらないんだ。俺、何もかも、全部なくしちゃったのかもしれない。家族、社員、全員が亡くなったのか、誰と誰が助かったのか、何も分からないんだ。

今、岡山さんに電話しているけど、俺、陸前高田にいるんじゃなくて、東京にいるんだ。

今日、新幹線に乗って一関に向かっていたら、大宮の近くで新幹線が止まって、で、ようやく今さっき、文京区にある妻の妹夫婦の家に辿り着いたんだ。

この日の午後2時46分、東日本大震災が起きた。

私の会社は、千葉県白井市の工業団地にある。会社の事務所2階にいた私は、今まで経験したことがない揺れと工業団地全体がザワザワする音を聞きながら両手で柱をつかみ、立ち竦んでいた。

そんな時でも、「これはこれまで経験したことがない、とんでもない災害が起きた」ことだけは、パニック状態の頭でもかろうじて理解できた。揺れが止まって、工場と事務所をチェックし、直ちに「全員、帰宅！　それぞれ家族の安否、自宅の状態を確認して！」と指示をだし、チェック終了後、私も都内の自宅に向かった。

途中、何度も自宅に電話したし、携帯で妻にも電話した。でも、全く繋がらない。

幹線道路は車がいっぱいで、なかなか進まないし、歩道は家に向かう人々でぎっしりだ。

普段なら1時間ちょっとで帰宅できるのに、この日は6時間かかった。

その後10日ぐらい経ってから、陸前高田からMさんが電話してきた。

「会社の社員、俺の家族、全員助かったよ！」

この年のゴールデンウィークに、妻と二人で、Mさん夫婦が身を寄せている岩手県一関大東町へ向かった。

大東町のMさんの親戚の家



に到着し、待っていたMさん夫婦と会った時、互いにしばらく声も出ない。

ようやく口から出た言葉は、「本当に良かったなー！」だけだ。

大東町に着いてから、Mさんに「陸前高田、見に行く？」と言われ、Mさんの車で陸前高田に向かった。高台の大東町から陸前高田へは一時間弱、県道をゆっくりと降りて行く。

ゴールデンウィークの東北は、緑も花も本当にきれいだ。自然豊かで素晴らしい。まるで震災などなかったかのようだ。

しかし、突然、本当に突然、それも水平に線を引いたように、緑豊かな自然と「泥まみれの生命を全く感じない世界」との境界線が目に飛び込んできた。

それから数時間、私たち夫婦はMさんの案内で、陸前高田の被災状況をつぶさに見て回った。

大東町に戻ったら、Mさんの奥さんが「岡山さん、現地を見て何か言っていた？」と

彼に聞いた。

「『あー！とか、ウーン！』とか『フー！』としか言わねぇ！」

「そうだよね、やっぱり。言葉なんか出ないよね」

以来、今日まで、私たち夫婦は10月になると1週間、3・11被災地を回って、亡くなられた方々に祈りを捧げ、最後に陸前高田のMさん夫婦に会う旅に出る。



高田に行っても、何か特別な話をするわけじゃない。顔を見に行って、互いの健康を気遣い、互いの家族の状況を伝え、世間話をし、また来年来るよ！といって別れる、それだけだ。

実際に被災した人たちの本当の気持は、本人以外には分からないのだから、そっと寄り添うほかにできることはない。



陸前高田のMさん夫婦から聞いた言葉は沢山あるけれど、一番忘れられないのが、「行動に移る速さの重要性」だ。

助かった人の行動の特徴は、「すぐに自分で行動した」ことだ。

何はともあれ、すぐに高い場所に向かって突っ走っていった人の殆どが助かった。

そして、近所の知り合い、今隣りにいる人たちが、互いに手を携え一緒に高い場所に向かって走っていった人たちの多くも助かった。それでも、考えられないほど多くの方が亡くなられた。この方々のことを思うと本当に言葉もない。

東京のような大都会だって、私たち日本人は、いざとなると「すぐに行動する」とか「すぐに声を掛け合って行動する」DNAをきっと持っているはずだ。が、事前に気持ちの備えが出来ていれば、対応はもっと早くなる。

どんな災害の場合でも、いかに素早いとはいえ最後に出動するのが、いわゆる「公助」と言われるものだ。つまり地方自治体や国だ。実際、被災地で懸命に力強い活動していたのは、市役所職員、自衛隊員、消防隊員、警察官、そして殆ど専門家のような活動をしているボランティア達だった。



この寄稿文の最後に、私の胸にしまっていた大事なこと（3・11の数年後にMさんが私に話してくれたこと）、これをお伝えしたいと思う。



「俺の孫（当時小学生1年ぐらい）が、何年も経ってから話してくれたんだけど」、と言ってMさんは話し始めた。

（Mさんの話）

3・11当日、皆で必死に、少しでも高い方に向かって走っていた時、海水がすぐ後ろにどんどん迫ってくる中で、俺の孫は、年輩の男性が脇の高い場所に投げ上げてくれたおかげで助かったんだ。

でも、孫を助けてくれたその男性は、そのあと、押し寄せる波に巻き込まれてしまった。

だから孫は、何年も、そのことを口に出せなかったんだな。ようやくつい最近、『爺ちゃん聞いてくれる？』って言って話してくれたんだ。

俺、孫と一緒に泣いたよ。有難いし、その男性のこと、俺も一生忘れられないよ。すごい人だな！って思っている。

「神は自らを助ける者を助ける」、子どもの頃、父から耳に胼胝（タコ）ができるほど聞かされた言葉だ。

私たちの国・日本は、大きなプレートだらけの上に国土があるだけでなく、火山帯の上にある。加えて、沖縄から北海道までの国土は台風の通り道でもある。私たちは、自然災害が常に起こる国土に住んでいるわけだ。

「自分のことは、先ず自分で守る」そして「家族や近所の人が助け合う」、やはりこれが基本である。（了）



※写真はいずれも震災直後に陸前高田市で著者が撮影。



浅草寺の起源

女帝推古天皇で繋がる飛鳥と浅草

協同組合浅草商店連合会 理事
台東区観光ボランティアの会 ガイド
西山 繁夫

東京のインバウンドは浅草・雷門。その浅草の商いを続ける西山氏は【台東区観光ボランティアの会のガイド】も努める。その筆者が日本の文化、仏教、鬼を語ってくれました。

２０２６年７月、「飛鳥・藤原の宮都」が世界文化遺産に登録された。この遺産群は、日本が古代国家として形を整えていく過程を示す貴重な文化遺産であり、その出発点に位置するのが、５９２年に即位したアジア初の女帝・推古天皇である。推古天皇は聖徳太子を重用し、冠位十二階や十七条憲法の制定、遣隋使の派遣などを通じて国家体制の基礎を築いた。また５９４年には「三宝興隆の詔」を発し、仏教を国家的に保護したことによって、日本文化の大きな方向性を定めた。

この飛鳥を語る上で重要な場所が、明日香村の「檜前（ひのくま）」である。ここは渡来系豪族・東漢氏の本拠地であり、寺院建築や土木技術を支えた先進的な技術者集団の拠点だった。世界遺産の構成資産である檜隈寺跡もその足跡を今に伝えている。

興味深いことに、この「檜前」の名は浅草にも現れる。浅草寺縁起によれば、６２８年、檜前浜成・竹成の兄弟が隅田川で聖観世音菩薩像を感得し、それが浅草寺の本尊となったと伝えられている。さらに村人の土師真中知を加えた三人が浅草神社の三神として祀られている。

ここに浅草の大きな特徴がある。全国には皇族や武将を祀る神社が数多く存在するが、浅草神社で神として崇敬されているのは、漁師と地域の有力者という、ごく普通の人々で、彼らは権力者ではなく、観音信仰の縁を結んだ人々として神格化された。浅草では身分や権威よりも、素朴な善行や信仰の縁が尊ばれてきたのである。

またそれゆえ浅草は、神仏混交の精神を色濃く残す。浅草寺と浅草神社は隣接し、観音信仰と神々への崇敬が自然に共存してきた。示現会にて、三社神輿が浅草寺本堂に上げられ、神への詔と観音経とを頂くことに象徴されるように、神と仏が、ともに敬う文化として受け継がれている。そこには対立よりも調和を重んじる日本文化の姿を見ることができる。



浅草寺の宝蔵門。左に五重塔が控える

さらに浅草寺には、もう一つ特徴的な思想がある。それは「鬼」に対する考え方である。雷門を守る護法善神「風神・雷神」は鬼の姿をしており、本堂外壁では天邪鬼が屋根を支え、内陣には灯鬼の姿も見られる。また年頭の秘法温座陀羅尼会では、法要の最後に鬼が登場し重要な役割を果たす。鬼は本来、地獄の獄卒（役人）であり、外国では「悪魔」とみなされがちだ。

日本では鬼はしばしば退治される存在として語られる。しかし仏教では様々な鬼の姿（餓鬼や夜叉、羅刹など）があり、中には仏法に帰依して善神となるものも少なくない。浅草寺における鬼は、地獄に落ちる人々を懲らしめる獄卒（役人）、転じて単なる「悪の象徴」ではない。人間の煩悩や苦しみを映し出す存在であり、地獄にて聖観音菩薩のご慈悲によって救済される対象でもある。

そのため浅草寺の節分会では「鬼は外」とは唱えない。鬼（罪人の象徴）を一方的に排除するのではなく、慈悲によって包み込み、仏の道へ導こうとするのである。この思想は、異なるものを排斥せず受け入れていく浅草の精神を象徴している。

飛鳥の国家形成を支えた推古天皇の時代から始まった仏教文化は、観音信仰を通じて東国の浅草へと受け継がれた。そこでは神と仏が共に敬われ、市井の人々が神となり、鬼でさえ救済の対象として受け入れられる。

浅草とは本来、対立ではなく共生を、排除ではなく包摂を尊ぶ場所である。飛鳥から続く歴史の流れの中で育まれたその精神こそ、今日まで多くの人々を惹きつけてやまない浅草の本質なのである。推古天皇が崩御した６２８年３月15日、人々は嘆き悲しみに沈み、そしてその三日後に川から掬い上げられた絶対秘仏、聖観音像。これが浅草の物語の始まりなのである。



西山繁夫さん

消費税は一律減税・インボイスは廃止に！運動を広げよう

食料品のみ１％減税の問題点



江東民主商工会・事務局長
赤羽目　新児

高市政権は「２年間限定・飲食料品のみ」という内容で、消費税率を１％にすることを閣議決定しました。国会に提案して現在審議中ですが我々は自民党案に反対です。

一見、消費税の減税ですから良いことのように思えます。しかし、有識者や国民からは多くの懸念の声が上がっています。今回の減税には、いくつもの問題点があるからです。

第一に、物価対策としての効果に疑問があります。飲食料品の税率は１％になりますが、店頭に並ぶまでには包装費や運送費など、10％の消費税がかかる費用も発生します。ナフサ不足や人手不足の影響で、こうしたコストも上昇しています。食品本体だけを減税しても、ほかのコストが上がり続ければ、値下げにつながらない可能性があります。

第二に、２年後には８％に戻ることが決まっている点です。消費者にとっては、せっかく下がった税率が再び引き上げられ、景気悪化を招く恐れがあります。企業側も、わずか２年間のためにレジシステムを改修し、８％に戻す際にも費用が発生します。そのコストが店頭価格に転嫁されれば、さらなる物価高につながりかねません。

第三に、事業者間の分断を生むことです。スーパーなどの小売店は減税によって売り上げが伸びるかもしれません。しかし、同じ食品でも店内で提供する飲食店は税率10％のままです。

「スーパーで買えば１％、店で食べれば10％。それならスーパーで買おう」という心理が働き、飲食店の客離れや売り上げ減少につながる可能性があります。

飲食店からは「食料品だけ下げるくらいなら、今のままのほうがまし」という声も聞かれ、大手外食チェーンからも反対意見が出ています。食品以外を扱う小売店との間にも、不公平感や対立を生みかねません。

第四に、財源の問題です。今回の減税による税収減は４兆円を超えると試算されています。首相は赤字国債に頼らないとしていますが、財源の確保策は明らかになっていません。財政への不安から円の信用が失われ、さらなる円安を招けば、減税以上に物価が上がるという本末転倒な結果にもなりかねません。



真の物価対策に必要なこと

以上のように、２年間限定、飲食料品のみの減税には数々の問題があり、かえって物価高を招く恐れがあります。本当に国民を救うのであれば、すべての消費税率を恒久的に引き下げるべきです。

私たち民主商工会は、消費税導入以来、一貫して減税・廃止を求め、幅広い団体と運動を続けてきました。消費税は社会保障のためという説明とは裏腹に、大企業や超富裕層への優遇を支えてきたのが実態だと考えています。

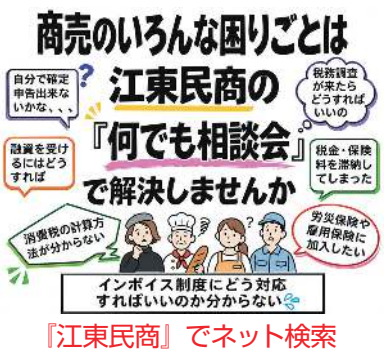
大企業や超富裕層への税制優遇を見直し、憲法が要請する「応能負担」の原則に立った税制を確立すれば、税の専門家の試算では80兆円の財源が生まれるとされています。そうなれば、消費税の廃止も十分可能です。少なくとも一律５％への減税は実現できるはずです。

一律減税は物価高対策になるだけでなく、２０２３年10月に始まったインボイス制度の廃止にもつながります。この制度は多くの零細事業者を苦しめています。

人気取りのための食料品限定減税に惑わされず、私たちは幅広い人々や賛同する政党と力を合わせ、消費税の一律減税とインボイス制度の廃止を求める運動を続けていきます。

江東民主商工会（民商）とは

江東民商は、戦後の強権的な徴税や税務署の横暴に対抗するため、区内の中小零細事業者によって77年前に設立されました。現在、全国約６０の民商に16万人、江東民商には約２７０人の会員がいます。中小業者の地位向上を目指し、税金・金融・経営から生活・法律まで幅広い相談に応じ、会員同士が助け合う活動を続けています。また、「平和でこそ商売繁盛」を掲げ、憲法９条を守る活動や核兵器廃絶運動にも取り組んでいます。全国商工新聞は、税制や各地の活動を伝える月額５００円の新聞です。民商や新聞に興味のある方は、ぜひご連絡ください。



好奇心旺盛なDNA

野口　文子

「好奇心旺盛な人」と言ったら、まず思い浮かべるのは母だ。4人の子育てが一段落すると、各方面にアンテナを張って学び始めた。もちろん節約家でもある母のことだ。新聞・テレビ・ラジオなどの情報で、無料や格安の講座・講演会を探して参加した。

子どものころ、近隣には東京電力、東京ガス、日新製糖などの大手企業が進出し、その社宅族のクラスメイトも多かった。以前の町と違って、インテリ階級と呼ばれる人々も増えたのではないか。農家出身の両親ではあったが、女学校卒業後、代用教員を長く勤めた母にとっては、向学心がムラムラと沸き起こったと考えられる。父は父で陸軍経理学校出身と胸を張ってはいたが、学歴コンプレックスを持っていたと思う。就業後に夜間の社会人大学に通う勉強家でもあった。後年、兄と競って不動産鑑定士の資格を取得したことを大いに自慢していた。



東電の料理教室、電気知識の学び、編み物や着付け教室、税金の知識などのレジュメが家じまいの時に次々と出て来た。文学歴史に最も興味があり、子どもたちに聞かせる話は語り部として迫力があった。今でも広告の裏白を使ったメモ書きに母の字を見つけると、懐かしくてグッとくる。

さて私だ。末っ子で甘やかされ、好きなように生きて来た。海外や国内旅行に何度も行った。人並みに息子や孫たちにも恵まれた。独り暮らしを楽しみ、趣味もあれこれ手を出し、好奇心旺盛なDNAは譲り受けている。

夢は宝くじで大当たりして気前よく子孫に配る。告別式、墓参りの行事は不要。「あばよ」とばかりに生涯を終えたいのである。

編集余話

近年AIは急速に発展開発されてきたが、今年になってAIが人類をコントロール、滅ぼされる心配が盛んに語られ始めて国際機関においても真剣に協議されるようになった。

人類がAIに勝つか負けるか当誌も固唾を呑んで見守りたい。そこでユニークな発明・発見者に与えられるイグ・ノーベル受賞者のバナナの馬淵清資氏に原稿依頼した。当誌と馬淵氏のやりとりの一部を紹介しよう。

「使命と考えて、原稿に挑戦してみます。とても難しいのだけど」

原野氏の今号掲載の原稿を送ると「大河ドラマの原稿は感情の発露で、勢いがあるのは、読みやすくていいですね。NHKの劣化は同感です。朝鮮出兵が、どう描かれるかは、国際問題になるので気になります。でも、AIの問題と比べると、問題が小さいので、400年前のことはどうでもいいと思います」

なるほど、先生の観点は人類の歴史いや大宇宙の歴史からくるものである。「締め切りは学会の研究発表に時期が重なるが…。まぁ、やってみましょう」といただいたのが本誌の掲載原稿です。願わくば続編もお願いします。

編集後記

今号は新規投稿者4名の方の投稿を掲載しております。いずれも「なるほど！」と考えさせられたり、「そういうことだったのか」と納得させられる内容です。今回は編集者としてではなく、一読者として感想を述べたいと思います。

まず、三雲さんの投稿です。立憲民主党の敗北を、単なる選挙結果ではなく、理念や組織運営の問題として分析されています。議席のための数合わせではなく、政治の原点に立ち返ることの大切さを改めて感じる内容となっています。

西山さんの浅草に関する投稿は、飛鳥時代から続く仏教文化を、神仏や鬼の存在を通して読み解く興味深い内容でした。特に、鬼さえも排除せず救済の対象とする考え方に、日本文化の懐の深さを感じました。

赤羽目さんの消費税減税に関する投稿は、減税の効果だけでなく、事業者への影響や財源問題まで掘り下げています。政策を表面的に評価せず、その先に何が起こるのかを考える大切さを教えてくれます。

締めを飾るのは西村智奈美衆院議員の投稿です。政党の離合集散という激動の中でも、少数野党としての責任を果たそうとする姿勢には感服致しました。議席の数にかかわらず、権力を監視し、多様な声を届けることは議会政治に欠かせません。

4つの投稿はテーマこそ異なりますが、いずれも物事の背景や本質を考えさせてくれるものばかりと思います。私自身、多くの発見と学びを得ることができました。

あらためて4名の新規投稿に感謝。もちろんレギュラー、準レギュラーの方々の投稿もいつもながら、感心させられる内容であったことを改めてお礼申し上げます。

我、敗れたり、されど、闘いは続けねばならない

民主改革の会　新潟県衆議院議員
西村　智奈美



今年に入ってから九カ月のうちに、二回も所属政党が変わることになった。そして変わるたびに規模が小さくなった。地元新潟で十月に開いた支持者の皆さんとの意見交換会で、私はこのことを率直にお詫びしました。

一月九日の夜に高市総理が衆議院の解散を模索しているという報道があった後、事態は大きく動きました。前年九月に高市政権が発足して連立政権を離脱していた公明党と、私たちが所属していた立憲民主党が、まずは衆議院で結集して新党を作り（中道改革連合）、来る総選挙をともにたたかうという方針は、一月二十七日の告示を目前に短期間で確立されていきました。高市政権は政治とカネの問題を軽視し、非核三原則の見直し等を求める日本維新の会と連立政権を組んで12項目に及ぶ政策合意を結ぶなど、初の女性総理であるという看板を活かして、国民生活にとっては優先順位が低いだけでなく有害な政策がすすめられるのではないかという危機感がありました。その危機感に背中を押され、新党へと進むことになったのです。

しかし選挙は大敗。私たちがともに仕事をしてきた仲間たちが大勢涙を飲みました。かく言う私も小選挙区では敗れ、比例区での議席を預かっている立場です。

現在、我々は、中道改革連合から分党した「民主改革の会」に所属する衆議院議員として、議会制民主主義を今いちど取り戻すべく、奮闘する日々です。自民党議員が衆議院で3分の2、連立与党である日本維新の会を含めると四分の三が与党という、圧倒的な数の力を前に、例えば予算に関する議員立法案は単独では提出できない、などの制約がある中ではありますが、国会での質問などできることはたくさんあります。いただいた議席を活かして、命と暮らしを守る政治を、さらに前に進めていく決意です。

それにしても簗農水大臣の辞任、文科大臣の会館不適正使用、などなど高市政権内の問題が続きます。特に簗大臣にはバス提供やボランティアへの金銭提供など公職選挙法違反の問題も指摘されており、時効になっているとはいえ、本当であれば議員辞職ものですが、大臣辞任によりご本人は答弁も会見の機会もなく、有耶無耶になってしまいました。とある自民党の前衆議院議員が私に、「野党がしっかりしていることは国会にとって大事なことなので頑張って」と声をかけてくれましたが、そのとおりです。数は少なくあれど野党に課せられた責任は大きいのです。

民主改革の会
DEMOCRATIC REFORM PARTY



予算委員会　2026年３月３日

消費税減税・給付法案の審議が行われています。飲食業の方はどうなるのか、農業の方はどうなのか、金融・マーケットに与える影響はどうなのか。しっかり議論したうえで方針を決定すべきでしたが、前国会では与野党代表者による国民会議に議論が丸投げされました。しかし国民会議は中間とりまとめしか公表できませんでした。今回はいわば高市政権が独断で消費税減税を決め、法案提出してきた形です。メリット、デメリットの両方がある問題ですので、これからでもしっかりと議論し、私としては本当に物価が下がるのかといった視点や２年後にどうなるのかといった視点、また当然ながら財源について法案にも書き込まれていないといった視点から、反対したいと考えています。

私が目指す社会像と志は不変です。その実現のためにまずは自らの足元を固めることからと考えています。とはいえ衆議院議員のみの政党に所属していることが議会制民主主義のためにも良いことだとはとても思えません。ですから、参議院議員や自治体議員の仲間たちとともに活動できるような国政政党としての形を作っていくことが必要だと考えています。誰もが安心して暮らせる社会をつくるよう、これからも努力して参ります。



刑事訴訟法改正案（再審法案）
国会提出　2026年５月15日

西村智奈美：新潟県吉田町現燕市生まれ。三条高校、新潟大学、大学院法学研究科卒業。在学中タイに、卒業後英国ブリストル大学留学。新潟国際ボランティアセンター事務局長、新潟県議を経て衆議院議員通算８期厚生労働副大臣、立憲民主党党首選挙に挑戦。党幹事長、中道改革連合を経て民主改革の会所属、新潟一区（新潟市中心）